

# 使徒的信仰 聖書の学び

## レッスン1：御言葉、福音、そして教義

聖書を完全に理解するために、聖書についてのいくつかの事実を知る必要がある。初めに、新約聖書の4区分を見てみよう。

- 1、4福音書：マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネ。
  - a. これらはイエス・キリストの伝記であり、4人の証人によってイエスの働きが記されている：イエス・キリストの誕生と人生、死、そしてよみがえりについて記録されており、この4人の著者によって同じ出来事が記されているが、各所に個人的な多くの記録がありのまま記されている。
- 2、使徒行伝（使徒達の行い）
  - a. 使徒行伝の書は、初代教会の歴史の記録である。－五旬節の日（ペンテコステ）の日に至るまでの出来事から、聖霊の注ぎが起こるまで、教会の時代に初めて語られたメッセージ、それから教会の基礎が据えられたいくつかの例えが載っている。
- 3、書簡
  - a. ローマ人への手紙からユダの手紙までは、使徒たちまたは他の指導者たち、もうすでに救いの体験を受けたものによって書かれた手紙である。彼らは神にあってどのように成長するかを教え、偽預言者を警告し、教会の中の問題に答えるなどが書かれている。
- 4、黙示録
  - a. この書はしるし的な形で書かれた預言の書である。たとえば、ある箇所には青白い馬は死の象徴と書かれ、またある箇所は、女が偽教会の象徴と書かれ、この書ははじめに聖書の残りの書を学ばなければ理解が難しい。新しい改心者に助言として、聖書の学びを始めるなら、使徒行伝か4福音書のいずれかをお勧めする。
- 5、御言葉の重要性
  - a. 神を喜ばせるためには、私たちは神の言葉に従わなければいけない。私たちが神の言葉に従えるのは、はじめに御言葉を学び、御言葉が何と言っているかを知ってからである。それゆえに神の御言葉は最も重要なのである。
  - b. 朗読、マタイ 15：8-9
    - i. 現代社会の人々は、彼らの都合に合わせて礼拝をささげても、神は彼らがささげるものを受け取ってくださると、大胆に述べている。イエスの時代のときもそうであった。そして私たちは、その様な人々の態度に対してイエスはどうか反応されたかを見ることができる。“無意味”とは“効果のない”という意味である。
    - ii. アダムの時代、カインは神を礼拝する血のいけにえを捧げる方法を他のものに替えてしまった。しかしそれは神の指定された方法であった。そして神はそのいけにえを拒んだ（創世記 4：1-7）それが本当であることがイエスの時代でも分かる。私たちは神が指定された正しい作法で神を礼拝すべきである。
  - c. 朗読、ヨハネ 17：17-20
    - i. ここでイエスは、私たちが使徒の言葉を通して彼を信じるようにと定められた。その彼らの言葉はどこで見つけるだろうか？聖書の中である。
    - ii. みんなが語る内容が少し違うという混乱がある。どれが真理かどのように知ることができるだろうか？神の言葉が真理である！
  - d. 朗読、I ペテロ 1：22-25
    - i. 真理に従えばわたしたちの魂は清められるという聖句を見ることができる。そして、御言葉によって私たちは再生を受ける。この御言葉、わたしたちにどのように再生を受けるか、福音を通してわたしたちに語られている。
  - e. 朗読、ヨハネ 4：23-24
    - i. 神を礼拝する本物の礼拝者、私たちは霊とまことの両方を持って神を礼拝しなければいけない。もうすでに私たちが見たように、神の御言葉は真理である（ヨハネ 17：17）その真理に沿って聖書を教え、また霊も持っていなければいけない。同様に霊を持っているだけで終わってはいけない。私たちは御言葉の真理の教えも持つ必要がある。

## 6、福音の重要性

- a. 福音の重要性についての聖句をいくつか見てみよう。
- b. 朗読、ローマ 1 : 16
  - i. 救いを得るにはどうするか？福音に従うこと、福音こそが“救いにいたる神の力”である。もし癒しを求めているなら、私たちは神の癒しの力が必要である。もし救いを求めているなら、神の救いの力が必要である。神はどんな方法でも人類を救うことができる。そして神は福音という方法を選ばれた。
- c. 朗読、Ⅱテサロニケ 1 : 7-12
  - i. 多くの人が神の御怒りから逃れるために教会に通い始める。しかしながら、この聖句は神を知る必要があること、そして福音に従うことによって御怒りを避けることができるということを教えている。
  - ii. ある人は、福音は使徒たちの時代までだと信じている。しかし 10 節では使徒たちが教えてきた同じ福音が世の終わりまで信じられると表している。
  - iii. 聖書に基づけば、キリストの福音はわたし達クリスチャンの人生に必要な不可欠なものである。

## 7、教義の重要性

- a. この教義 (doctrine) という言葉はギリシャ語のディダスカリア (didaskalia) から来ている。その意味は“導き”または“教え”である。ある人々が信じているような“意見(考え)”という意味ではない。教義はわたし達クリスチャンが神との歩みをしていく中で非常に大切である。下記の聖句はそのことを示している。
- b. 朗読、Ⅱテモテ 3 : 14-16
  - i. ある人は“聖書は私たちが学んだことを続けなさい。と言っているからわたしは変わる必要がない”と言うかもしれない。しかし、もし私たちが聖書を理解しているなら、パウロはテモテに、テモテが学んだ事柄を続けて行いなさいと言っていることに気づくだろう。神は人を偏り見る方ではない。だから使徒パウロがテモテに教えたことを続けて行いなさい言うように見れば意味が通じる。(Ⅱテモテ 3 : 10)
- c. 朗読、Ⅰテモテ 4 ; 13-16
  - i. この書はすべて使徒パウロがテモテに宛てた手紙であることを覚えていてもらいたい。この節では、パウロは教義を行うようにとテモテにはっきりと言っている。また教義は彼(テモテ)を救い、彼の言葉を聞きく者もまた救われると言っている。
- d. 朗読、ローマ 6 : 17-18
  - i. この書は使徒パウロからローマ人へ宛てた手紙である。使徒によってもたらされた教義を、彼らが信じたことにより罪から解放されたことを説明するものである。もう一度言おう、神は人を偏り見るお方ではない。だから私たちもその同じ教義に従う必要がある。
- e. 朗読、Ⅱテモテ 4 : 2-3
  - i. 使徒パウロは、人は健全な教義を行わないときが来ると預言している。その代わり、彼らは自分の好きな“耳障りの良い”説教をする説教師を寄せ集める。
  - ii. 私たちが好む響きの良い説教をする者について行かない様に、気をつけなくてはいけない。その代わり、私たちは健全な使徒的教義を教える者を求めていかななくてははいけない。

## 8、御言葉を学ぶ追加聖句

- a. ここに私たちと神との歩みを成功させるために、理解しなくてははいけない点を挙げた追加聖句である。
- b. 朗読、Ⅱペテロ 1 : 20-21
  - i. 私たちは人々がこういうのを聞いたことがあるだろう、“わたしにはわたしの解釈がある、あなたにはあなたの解釈がある”しかし聖書は、聖句を個人的に解釈してはいけないと言っている。聖書の言う意味は読んで字のごとくである！
- c. 朗読、Ⅱペテロ 3 : 15-17
  - i. 使徒パウロはこのように指摘している、使徒パウロは“彼に与えられた知恵に基づいて”この手紙を書いたと。彼は、聖書のある事柄は知恵がなくては理解できないと書いているのだ。それだから、私たちが聖句を自分勝手にひねって解釈することが出来るということだ。
  - ii. もし聖書の中で私たちが理解できない箇所があるとする、わたし達は理解できるところまで神に従い続け、残りは完全に理解が与えられるまで待てばいい。奥深い事柄のゆえに私たちが倒させるようなことはしてはいけない。

## 9、偽預言者を警戒する

### a. 朗読、マタイ 7：13-24

i. 聖書が羊と言うとき、それは一般に神の民と言う意味である。“羊の衣を着た者がやって来る”とは偽預言者が神の働き人として来るという意味である。今日の専門用語では、彼らは福音の説教者たちということが出来るだろう。

ii. これらの偽預言者をどうすれば見つけ出せるか？イエスは、彼らの成らず実、もしくは彼らの行いによって知ることができると言っている。もし彼らが、主の御名を用いてはいるが、御旨を行っていないのなら、彼らは偽預言者である。

iii. 多くの人々が、これらの偽預言者の教えに従う、従っている人々は、心から天国に彼らの居場所が備えられていると信じている。騙されているのだ。イエスは彼らのことをこう呼ぶ“不法を働く者”と。たとえ彼らがイエスの名を用いてすばらしい働きをしていると思いついても。

iv. 誰もが、イエスが“賢者は岩の上に家を建てる”と言うのを聞いたことがあるだろう。イエスが言ったところをどこから探せばいいのか？神の御言葉の中にある。

### b. 朗読、Ⅱコリント 11：13-15

i. 使徒パウロは偽預言者について教会に警告している。彼らはキリストの使徒の振りをしている。しかしパウロは彼らのことを“だます働き人”と呼んでいる。

### c. 朗読、Ⅱテモテ 3：13

i. 使徒パウロは、悪人と詐欺師とは、人を惑わし、人に惑わされると警告している。もし彼らが心から彼らの教えを信じて騙されているとしても、もし彼らがエラーに気づいていないにしても、それでも彼らは間違っているのだ。わたし達は彼らを嫌うことも病になるように願ってもいけない。しかし決して彼らに従ってはいけないのだ。

### d. 朗読、Ⅱテモテ 3：1-7

i. 私たちが生きている今日は、霊的な歩みにおいてとても危険である。ある人々は信心深い形をとるものもあり（ある種の宗教に属し）、しかし彼らは神が今日、人間の人生に働く“力を否定している”。もしくは彼らが神学についての論議や聖書についての途方もない知識を得るかもしれない、しかし彼らは単純な救いについての知識は決して得られない。

### e. 朗読、マタイ 15：14

i. イエスはある祭司と目の見えない人とを比べられた。私たちもまた現代において偽預言者をこのように比べることが出来る。どれだけ人々が彼らに従っても、彼らの教えを信じて、いずれは彼らすべて同じ穴に陥るのだ。

### f. 朗読、ガラテヤ 1：6-12

i. たとえ使徒たちの時代であっても、ある人々は福音を変えよう（曲げようと）する。

ii. パウロは、もし人、もしくは天からのみ使いであっても、使徒たちが語った福音以外の福音を語るならば、その人はのろわれると強調した。偽預言者は私たちの時代にも現れる。使徒たちの語ったメッセージと異なるメッセージを語るなら、彼らは自分自身に神ののろいを招いている。

### g. 朗読、コロサイ 2：8-9

i. わたし達は哲学や人の言い伝えを警戒しなくてはならない。神の御言葉の代わりに何か人の言うことを信じるようなことがあれば、私たちは“駄目になる”“腐る”。この“駄目、腐る（無駄にする）”と言う言葉は、負ける、奪われると言う意味を含んでいる。“戦いが駄目になった”と同じである。私たちが聖書の代わりに人の哲学や言い伝えを信じてしまったゆえに、私たちの救いが奪われてしまった、と同じ意味になるだろう。

### h. 朗読、ローマ 3：4

i. もし人が、聖書に同意しない何かを言うならば、その人が間違いであり、聖書のほうが正しい。

## レッスン1 ワークシート

- 1、イエスは使徒たちのためだけではなく、何を通してイエスを信じた人々のために祈った。それは何を通してか？
  - a. 献金。
  - b. 御言葉。
  - c. 感情。
- 2、福音の目的は何か？
  - a. 娯楽を備えるため。
  - b. 救いを備えるため。
  - c. 気晴らしを備えるため。
- 3、終わりの時、誰に対してイエスは燃える炎と報復を持って戻ってこられるのか？
  - a. 保険に入っていない人々に対して。
  - b. 福音に従わない人々に対して。
  - c. 惑わされなかった人々に対して。
- 4、教義を気をつけていたわたし達にどんな結果が待っている？
  - a. わたし達は救われる。
  - b. わたし達は誇らしくなる。
  - c. わたし達は政治的指導者となる。
- 5、聖句は・・・をしてはいけないとある。何をしてはいけない？
  - a. 自分勝手な解釈。
  - b. 宗教的意義。
  - c. 神的靈感。
- 6、イエスは、偽預言者をどのように見分けなさいと言われたか？
  - a. 彼の外見によって。
  - b. 彼の実（行い）によって。
  - c. 彼が持つ会衆の多さによって。
- 7、イエスは彼の言葉を聞いて従う者のことをどのように言っているか？
  - a. ビーチに家を建てるような者。
  - b. 岩の上に家を建てるような者。
  - c. 森の中に家を建てるような者。
- 8、たとえ天からの御使いであっても、何をするとどのろわれる？
  - a. 羊のような装いをしない。
  - b. ラッパを吹かない。
  - c. 邪道な福音を語る。
- 9、パウロは偽預言者をどう呼んでいる？
  - a. 迷っている魂。
  - b. 放棄者。
  - c. だます働き人。
- 10、コロサイ人への手紙2：8、“駄目にする（腐る）”という言葉の意味は？
  - a. 発酵する（動揺する）。
  - b. 負ける、奪われる。
  - c. カビる。